

確定版(11/20更新)

日本文化政策学会  
第12回年次研究大会  
開催要綱

研究大会テーマ  
「社会デザインとしての文化政策」

2018年11月24日(土)・25日(日)

会場：九州大学大橋キャンパス

\*11月23日(金・祝)関連企画(特別講演会、エクスカージョン)

主催：日本文化政策学会

## 大会趣旨

日本文化政策学会は文化政策研究の発展と普及、文化政策立案と実践を通じた社会貢献、文化政策研究に関心を持つ人びとの交流とネットワーク化をはかるため、2018年次研究大会を九州大学大橋キャンパスにおいて開催します。大会テーマは「社会デザインとしての文化政策」。社会全体をつなぎ、相互に支え合い、分かち合う社会哲学であり新たな価値創造の実践思考でもあるデザインと文化政策は連携と創発を高めており、全国から訪れる気鋭の研究者・実践者たちが最新の知見を発表し議論を交わします。

日時：2018年11月24日（土）・25日（日）

＊11月23日（金・祝）関連企画（特別講演会、エクスカージョン：15-18ページ参照）

会場：九州大学大橋キャンパス [815-8540 福岡県福岡市南区塩原 4-9-1]

（西鉄天神大牟田線「大橋」駅徒歩5分・JR 鹿児島本線「竹下」駅徒歩15分）

主催：日本文化政策学会

共催：九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ

九州大学芸術工学部芸術情報設計学科開設科目「フィールドワーク演習」

九州大学法学部公開講座

「現代社会におけるクリエイティブ産業の役割（JASRAC 寄附科目）」

後援：九州大学大学院芸術工学研究院、九州大学大学院芸術工学府、九州大学芸術工学部、福岡市（予定）、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団（予定）

助成：文化庁 平成30年度 大学における文化芸術推進事業（公開シンポジウムⅡ）  
芸術工学50周年記念事業関連行事

参加費：

事前振込の場合会員1,000円、非会員2,000円、学生1,000円

当日申し込みの場合会員2,000円、非会員4,000円、学生2,000円

※1日目の公開シンポジウムⅠ・Ⅱ、企画フォーラム、屋台大学 in 九州大学芸術工学部、2日目の公開ラウンド・テーブル、両日のポスターセッションのみの参加は無料です。

大会スケジュール	
11月24日(土)	
10:00	受付開始
10:30-12:00	公開企画フォーラム(一般公開/無料/事前申し込み不要/手話通訳有) (1)「ミュージアム評価の総括と新たな手法構築に向けた試行」 (2)「文化政策の諸外国調査から考える日本の文化政策への示唆」
12:00-13:15	昼食・休憩
13:15-13:30	ご挨拶
13:30-15:30	公開シンポジウムⅠ 「社会デザインとしての文化政策と法の役割 —『法のデザイン』の観点から—」(一般公開/無料/事前申し込み不要/手話通訳有)
15:45-17:45	公開シンポジウムⅡ 「社会包摂を目指した文化芸術事業・施策の評価 —社会デザインの観点から—」(一般公開/無料/事前申し込み不要/手話通訳有)
18:00-20:00	懇親会
20:00-21:30	屋台大学 in 九州大学芸術工学部(一般公開/無料/事前申し込み不要) (1)グローバル世界に拮抗する九州ローカルデザイン&ストーリー (2)周縁文化の力が連携とレジリエンスを生み出す —漫画・マンガ・まんが、九州漫画風土の共創—
11月25日(日)	
08:30	受付開始
09:00-11:20	分科会Ⅰ-A~E
11:30-12:00	5分間プレゼンテーション
12:00-13:00	ポスターセッション(コア・タイム)
12:00-13:00	昼食・理事会
13:15-13:45	総会
13:50-16:10	分科会Ⅱ-A~E
16:30-18:00	ラウンドテーブル(一般公開/無料/事前申し込み不要/手話通訳有) 「未来の社会デザインと文化政策の役割」

◎研究大会プログラムに関するお問い合わせ先

日本文化政策学会第12回年次研究大会（九州大学）事務局

〒815-8540 福岡県福岡市南区塩原 4-9-1

九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室

Email: jacpr2018fukuoka@gmail.com

◎上記以外（入退会、参加申込・支払等）のお問い合わせ先

日本文化政策学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室内

E-mail: jacpr\_office2013@yahoo.co.jp

URL : <http://www.jacpr.jp/>

2018年11月24日(土)

10:00	受付開始	多次元デザイン実験棟玄関
-------	------	--------------

10:30~12:00	企画フォーラム	デザインコモン
-------------	---------	---------

(1) 「ミュージアム評価の総括と新たな手法構築に向けた試行」

会場：デザインコモン 1F

企画代表者・コーディネーター：

・佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科教授）

発表者：

・北村淳一（三重県総合博物館学芸員）

・佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸員）

・釋知恵子（公益財団法人大阪市博物館協会）

・黒岩啓子（Learning Innovation Network 代表）

コメンテーター：

・亀山裕美子（日本評価学会認定評価士）

(2) 「文化政策の諸外国調査から考える日本の文化政策への示唆」

会場：デザインコモン 2F

企画代表者：朝倉由希（文化庁地域文化創生本部研究官）

登壇者：

・秋野有紀（獨協大学外国語学部准教授）

・朝倉由希（文化庁地域文化創生本部研究官）

・菅野幸子（アーツ・プランナー／リサーチャー AIR Lab）

・長嶋由紀子（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）

ゲストコメンテーター：

・藤野一夫（神戸大学大学院国際文化科学研究科教授）

12:00-13:15	昼食・休憩
-------------	-------

13:15-13:30 開会挨拶 多次元デザイン実験棟ホール

13:30-15:30 公開シンポジウムⅠ 多次元デザイン実験棟ホール

社会デザインとしての文化政策と法の役割 —『法のデザイン』の観点から—

会場：多次元デザイン実験棟ホール

講演者：

- ・水野祐（弁護士）

ディスカッサント：

- ・熊倉純子（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授・同研究科長）
- ・大澤寅雄（ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員）
- ・小島立（九州大学大学院法学研究院准教授）

15:45-17:45 公開シンポジウムⅡ 多次元デザイン実験棟ホール

社会包摂を目指した文化芸術事業・施策の評価 —社会デザインの観点から—

会場：多次元デザイン実験棟ホール

パネリスト：

- ・朝倉由希（文化庁地域文化創生本部研究官）
- ・長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教）
- ・中村美垂（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）

ディスカッサント：

- ・中川幾郎（帝塚山大学名誉教授、日本文化政策学会顧問（元会長））

18:00-20:00 懇親会 デザインコモン 1F

20:00-21:30 屋台大学 in 九州大学芸術工学部 多次元デザイン実験棟

（1）グローバル世界に拮抗する九州ローカルデザイン&ストーリー

会場：多次元デザイン実験棟ホール

モデレーター：

- ・樋口明彦（九州大学大学院工学研究院環境社会部門都市システム学准教授）

パネラー：

- ・津高守（株式会社JR大分シティ代表取締役社長、前JR九州常務取締役）
- ・若杉浩一（九州大学グローバルイノベーションセンター客員教授・

株式会社パワープレイス シニアデザイナー・日本全国スギダラケ倶楽部企画部長）

・國盛麻衣佳（アーティスト・小田原短期大学講師）

（2）周縁文化の力が連携とレジリエンスを生み出す —漫画・マンガ・まんが、九州漫画風土の共創—

会場：多次元デザイン実験棟ロビー

登壇者：

- ・橋本博（熊本県合志マンガミュージアム館長、  
特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト（クママン）代表）
- ・うえやまとち（漫画家、第39回講談社漫画賞・特別賞受賞  
「クッキングパパ」作者、（公社）日本漫画家協会九州支部長）

## 2018年11月25日（日）

08:30	受付開始	多次元デザイン実験棟玄関
-------	------	--------------

9:00-11:20	分科会 I - A ~ E	5号館
------------	---------------	-----

分科会 I - A	自律性と公共性	5号館 1F 511 教室
-----------	---------	---------------

座長：友岡邦之（高崎経済大学）

副座長：長嶋由紀子（東京大学）

- ① 英国アーツカウンシル内コミュニティ・アート専門部局が果たした役割について  
—コミュニティ・アーティストとの論争を中心に—

小林瑠音（神戸大学国際文化学術研究推進センター）

- ② 歴史的変遷からみるシンガポールの芸術支援体制の特徴

川崎賢一（駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部）・

伊志嶺絵里子（東京藝術大学音楽学部非常勤講師）

- ③ 現代シンガポールの高齢者のための芸術活動に関する萌芽的研究 —Ageless  
Theater を事例に—

南田明美（神戸大学大学院国際文化学術研究科・博士後期課程／

大阪音楽大学音楽学部ミュージックコミュニケーション専攻・非常勤助手）

- ④ インドネシアにおける文化政策と社会デザイン —伝統的知識保護

（Pengetahuan Tradisional）と創造経済（Ekonomi Kreatif）の行方—

新地真之（名古屋大学大学院法学研究科・学術研究員）

座長：戸ノ下達也（洋楽文化史研究会）

副座長：中村美帆（静岡文化芸術大学）

- ① 1970年代後半福岡におけるアジア美術の創出と展開に関する研究 —九州芸術工科大学初代学長小池新二のアジア観醸成過程と1979年「近代アジアの美術～インド・中国・日本～」展へ—

藤原恵洋（九州大学大学院芸術工学研究院・教授）

- ② 旧産炭地における芸術文化活動の多様性と意義に関する研究 —三井三池炭鉱における戦後美術を中心に—

國盛麻衣佳（小田原短期大学・講師）

- ③ 米国による戦後の対日文化政策に関する研究 —歌舞伎脚本の検閲資料を基に—  
小泉真理子（京都精華大学・准教授）・上條由紀子（特許業務法人太陽国際特許事務所）

- ④ 日本初の国立劇場 —ヨーロッパの劇場機関の移転と日本の文化政策が生み出したもの—

ベルクマン・アンネグレート（ベルリン自由大学・特任准教授）

座長：吉田隆之（大阪市立大学）

副座長：山口祥平（大分県立芸術短期大学）

- ① 地域社会に矜持と互助を再生する文化の情報資源化モデルの検討

佐藤忠文（熊本県立大学・特任講師）

- ② 社会問題化した「部活動のあり方」に文化政策はどう応えるか —中学校管理職及び教諭対象のアンケート調査から—

西島央（首都大学東京・准教授）

- ③ 韓国・済州道における地域固有の文化資源を生かした創造的地域再生の評価 —生物多様性、世界自然遺産、芸術家ストリート、オルレ etc における住民参加の手法について—

張慶彬（九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻・博士課程）



- ④ ひと・まち・しごと創生時代における創造人材研鑽を支援する公共図書館のあり方に関する研究 ―社会教育施設から文化プログラム実践機関へ発展していくための条件・課題―

岩井千華（桜の聖母短期大学・講師）

分科会Ⅰ-D ガバナンスとプロセス（意思決定） 5号館 2F 524 教室

座長：阪本崇（京都橘大学）

副座長：高島知佐子（静岡文化芸術大学）

- ① 市民参加型アートプロジェクトにおける企画内容の決定プロセスに関する研究  
―「野村誠千住だじゃれ音楽祭」を事例として―

石橋鼓太郎（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・博士後期課程）

- ② 脱制度化のアートマネジメント試論その2 ―住民主体型アートプロジェクト「葉山芸術祭」を事例に―

伊藤裕夫（静岡文化芸術大学・非常勤講師）

- ③ 地方自治体文化振興計画に見る文化政策の構造と政策評価の課題

岩瀬智久（静岡文化芸術大学事務局）

- ④ わが国の地域における文化政策の発展形態に関する都市間比較による考察

岡田智博（青山学院大学・非常勤講師）

分科会Ⅰ-E 観光・ツーリズム 5号館 3F 531 教室

座長：古池嘉和（名古屋学院大学）

副座長：富本真理子（鈴鹿大学）

- ① 小林一三の「アミューズメント・センター」構想の考察

松本郁子（東洋英和女学院史料室／東京大学大学院文化資源学科・博士課程）・

李知映（東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員）

- ② 「明治日本の産業革命遺産」を取り巻く文化財制度の変遷と地域参与のあり方  
―官営八幡製鐵所の世界遺産登録と地域政策の変化を中心に―

市原猛志（九州大学大学文書館・協力研究員）

- ③ コンテンツツーリストに対する政策誘導の可能性 —アニメ聖地における活動組織の分類を通して—

片山明久（京都文教大学・准教授）

11:30-12:00	5 分間プレゼンテーション	多次元デザイン実験棟ホール
-------------	---------------	---------------

- ① アジア大洋州地域におけるアートマネジメント教育・研究ネットワーク構築の試み

幸村和也（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・修士課程）

箕口一美（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・講師）

谷地田未緒（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・助教）

古橋果林（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・修士課程）

- ② シンガポールにおける文化遺産としての屋台文化の認知と、食から戦争を想起させることで強化される国民意識の関係

齋藤梨津子（シンガポール国立大学・博士後期課程）

- ③ アートの現場を調査する倫理と方法 —対象者との関係を作る・はかる—

高橋かおり（立教大学社会情報教育研究センター・助教）

- ④ 中身のある「鑑賞の機会」の提供のために

萩原昌子（NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク・理事長）

12:00-13:00	ポスターセッション（コア・タイム）	多次元デザイン実験棟ロビー
-------------	-------------------	---------------

12:00-13:00	昼食・理事会	5号館 1F 512 教室
-------------	--------	---------------

13:15-13:45	総会	多次元デザイン実験棟ホール
-------------	----	---------------

13:50-16:10	分科会 II—A～E	5号館
-------------	------------	-----

分科会 II-A 劇場・実演 5号館 1F 511 教室

座長：宮崎刀史紀（京都市音楽芸術文化振興財団）

副座長：李知映（東京大学）

- ① 日本の公立劇場における専門的人材の議論に関する一考察

幸村和也（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・修士課程）

- ② 地方公共団体文化政策の法整備と今後の展望 —茨城県つくば市の実演芸術体験機会を事例として—

赤松洋子

- ③ 地域の劇場、音楽堂等における芸術家支援に関する一考察 —芸術家登録バンク「SaCLa アーツ」に対するアンケート調査をもとにして—

神保富美子（（公財）さいたま市文化振興事業団）

- ④ 公立文化施設の事業運営の課題 —足利市民会館における専属プロフェッショナル芸術団体の活動実績から—

阿部栄（公益財団法人足利市みどり文化・スポーツ財団・嘱託職員）

分科会 II-B アートプロジェクトと市民協働 5号館 1F 512 教室

座長：小泉元宏（立教大学）

副座長：佐藤李青（アーツカウンシル東京）

- ① 音楽アウトリーチ実践者が抱える課題意識の規定要因 —所属と職務に注目して—

杉山昂平（東京大学大学院情報学環・学際情報学府・博士課程）・

伏木田稚子（首都大学東京）・杉山幸代（上野学園大学）

- ② 文化・芸術政策における利益団体に関する考察 —霧島国際音楽祭を事例に—

熊田知晃（明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻・博士後期課程）

- ③ 過疎地型芸術祭と持続可能な地域づくり —奥能登国際芸術祭を事例に—

吉田隆之（大阪市立大学大学院・准教授）

- ④ 持続可能な芸術祭サポーターの育成と市民ネットワーク化をめざした事後プログラムの検討 —都市型芸術祭さいたまトリエンナーレ2016を支えたサポーターは、主体的にさいたま国際芸術祭2020をめざすのか？—

藤原旅人（九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻・博士後期課程）

座長：須田英一（法政大学）

副座長：高久彩（九州大学）

- ① 高度成長の時代における文化財保護運動の現在的意義 — 一文全協の分析を中心として —

土屋正臣（城西大学・助教）

- ② 文化財保護と観光の関わり — 山梨県北杜市「三代校舎ふれあいの里」を事例に —  
森屋雅幸（都留市教育委員会・副主査）

- ③ 文化財保護政策における市民協働の実態と課題 — 「市民的公共圏」実現の視点から —

馬場憲一（法政大学・名誉教授）

- ④ 日本の文化財政策における「日本遺産」の評価について

井上敏（桃山学院大学経営学部・准教授）

座長：川井田祥子（鳥取大学）

副座長：谷口文保（神戸芸術工科大学）

- ① 刑務所内の文化環境に関する実態調査の試み — プリズン・アートマネジメントを目指して —

風間勇助（東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程）

- ② 障害者芸術表現と家族の関係

高橋梨佳（首都大学東京大学院システムデザイン研究科インダストリアルアート学域）

- ③ 社会との関係性で捉える障がいのある人の創作活動 — 活動の多様性を促進する「指標」の提案 —

村谷つかさ（九州大学大学院芸術工学研究院・学術研究員）

- ④ コミュニティにおける文化芸術活動の社会的インパクト評価手法

落合千華（慶應義塾大学政策・メディア研究科・研究員）

座長：鬼木和浩（横浜市）

副座長：岡田智博（青山学院大学）

① アートプロジェクトにおける盆踊りの創出 —社会デザインの観点から—

榎原彩（東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻芸術環境創造領域・博士後期課程）

② 現代日本における小規模民間型アートスペースの実践 —主催者の動機づけをめぐる—考察—

櫻井駿介（東京藝術大学大学院・博士後期課程）

③ 社会関与のデザイン／デザイナーによる社会的関与の技法と表現 —香港、油麻地のコミュニティ屋台プロジェクト、「街坊排檔（カيفون・パイドン）」の活動を事例として—

江上賢一郎（九州大学・韓国研究センター・助教）

④ ソーシャリー・エンゲイジド・アート（SEA）における著作権法の役割 —アヴィヴァ・ラマニの《青く塗った木々のシンフォニー》を事例に—

秋葉美知子（アート&ソサイエティ研究センター）

16:30-18:00

ラウンドテーブル

多次元デザイン実験棟ホール

未来の「社会デザイン」と文化政策の役割

登壇者：

友岡邦之（高崎経済大学）

戸ノ下達也（洋楽文化史研究会）

吉田隆之（大阪市立大学）

阪本崇（京都橘大学）

古池嘉和（名古屋学院大学）

宮崎刀史紀（京都市音楽芸術文化振興財団）

小泉元宏（立教大学）

須田英一（法政大学）

川井田祥子（鳥取大学）

鬼木和浩（横浜市）

■大会会場までのアクセスについて

九州大学大橋キャンパス

住所：815-8540 福岡県福岡市南区塩原 4-9-1

(西鉄天神大牟田線「大橋」駅徒歩5分・JR 鹿児島本線「竹下」駅徒歩15分)

アクセスマップは以下のサイトをご確認ください。

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyushu-u/access>

■昼食について

本学大橋キャンパスの周辺には数多くの飲食店がありますので、弁当の発注等はいりません。当日はおすすめのランチマップをお配りいたしますので、ぜひ福岡の食をお楽しみください。

■懇親会について

日時：2018年11月24日(土) 18:00～20:00

会場：九州大学大橋キャンパス デザインコモン 1F

参加費：事前申し込みは一般(会員・非会員ともに)6,000円、学生3,000円

当日申し込みは一般(会員・非会員ともに)7,000円、学生4,000円

申し込み方法：大会申し込みと同時に申し込み。事前振込が必要です。

■研究大会参加申込方法（申込期間 10月15日～11月11日）

申込は日本文化政策学会のウェブサイトの入力フォームで受け付けています。振込先情報は、入力フォームに入力した後に、学会事務局（東京）から送られる受付確認のメールに記載されています。申込者と振込の照合に確実に期するため、入力フォームでの申込後に振込という手順となりますのでご了解ください。

なお、発表者、予定討論者も参加申込が必要となります。

【申し込み手順】

①学会のウェブサイトアクセスし、入力フォームに必要事項を入力して送信します。

日本文化政策学会ウェブサイト <http://www.jacpr.jp>

事前申込の入力締切：11月11日（日）（厳守）

②入力フォームで記入したメールアドレスに、回答のコピー（控え）がGoogleフォームより自動送信されます。この時点では、入力内容の控えの送信のみで、振込先情報の記載はありません。

③学会事務局（東京）より、振込先情報を記載した大会申込受付のメールが送られます。

事前申込の振込締切：11月15日（木）（厳守）

※振込は必ず申込をされた方本人のお名前をお願いします。申込されても振込がない場合は当日申込扱いになりますので、ご注意ください。

※③の受付は手動で行っておりますので、振込先等の連絡に時間を要する場合がありますので、ご了承ください。時間に余裕をもった参加申込にご協力ください。

■関連企画①：市民公開特別講演会

「〈世界のトヨタ〉音響設計家豊田泰久氏、音響設計の魅力を語る」

日時：11月23日（金・祝）13:00～18:00（開場 12:00）

場所：多次元デザイン実験棟 1F ホール

参加費：無料／事前申し込み不要（どなたでもご参加いただけます）

○タイムスケジュール

12:00 開場・受付

13:00 開演

13:00～14:00 劇団ティンカーベル プチミュージカル公演・ワークショップ

解説：原千波（劇団ティンカーベル主宰、原建設グループ株式会社取締役社長）

14:00～14:30 休憩

14:30～15:30 〈筑紫舞〉事始め

実演・解説：西山村津奈寿（筑紫舞二代目宗家）、

川原正孝（筑紫舞伝承後援会理事長、株式会社ふくや会長）

15:30～16:00 休憩

16:00～18:00 市民公開特別講演会

〈世界のトヨタ〉音響設計家豊田泰久氏、音響設計の魅力を語る

16:00～16:20 歓待の演奏：武内俊之（ピアニスト・福岡教育大学教育学部音楽教育講座准教授）

16:20～16:25 講師紹介

16:25～18:00 豊田泰久（音響設計家・NAGATA ACOUSTICS 代表）講演

九州大学芸術工学部音響設計学科5期生 1976年卒業、永田音響設計に入社後、1986年サントリーホールや1993年北九州市立響ホール等をはじめ、2017年ドイツ・ハンブルクのエルプ・フィルハーモニー（建築設計：ヘルツォーク&ド・ムーロン）等、世界中の著名なコンサートホールや劇場を手掛け〈世界のトヨタ〉と称される。

18:00 終了



※講演会終了後、懇親会を予定しています。

〈世界のトヨタ〉音響設計家豊田泰久氏の音響設計哲学に触れる夕べ

日時：11月23日（金・祝）18:00～21:00

場所：デザインコモン 1F

参加費：5,000円（要事前申込み 及び 要事前支払い）

\*懇親会の事前申し込み期限：11月11日（日）

①氏名 ②所属 ③連絡先（メール・電話）を記載してください。

追って事前支払いのための振込先をご案内します。

事前支払いは11月16日（金）までに、担当者にお支払いいただくか、指定口座へお振り込みをお願い致します。振込の場合、後日、領収証をお渡しいたします。

主催：「〈世界のトヨタ〉音響設計家豊田泰久氏、音響設計の魅力を語る」実行委員会（代表／藤原惠洋）

**お申し込み・お問い合わせ先**

市民公開特別講演会「〈世界のトヨタ〉音響設計家豊田泰久氏、音響設計の魅力を語る」事務局 メールでお申し込みください。

住所：〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1

九州大学大学院芸術工学研究院藤原惠洋研究室気付

メール：[keiyo@design.kyushu-u.ac.jp](mailto:keiyo@design.kyushu-u.ac.jp)

## ■関連企画②：エクスカーション

糸島国際芸術祭 2018 糸島芸農『マレビトの通り道』& Studio Kura 特別ツアー

日時：11月23日（金・祝）13:30 集合（予定\*）

集合場所：JR 筑肥線 筑前前原駅（予定\*）

（福岡市地下鉄空港線直通、福岡空港から約45分、博多駅から約40分）

**募集〆切：2018年11月11日（日）** 定員：20名（先着順）

\*集合時刻・場所等の詳細は、お申し込み後、個別にメールでお知らせいたします。

糸島国際芸術祭「糸島芸農」は糸島市二丈松末地区で隔年開催される国際芸術祭です。福岡市に隣接する糸島市は、美しい自然と豊かな農業などの生産現場に恵まれ、近年、多くの工芸家、デザイナー、芸術家などが移り住んでいます。

「糸島芸農」は2012年に始まりましたが、助成金に頼らず、ほぼ手弁当で自主的に運営しているところに特徴があります。今年の会期は10月末ですが、日本文化政策学会のために特別にガイドツアーとパフォーマンスを実施していただけることになりました。

本ツアーでは、糸島芸農実行委員長の松崎宏史氏が運営している **Studio Kura** も訪問します。2010年に創業された Studio Kura は「糸島から世界に文化発信！」をモットーに精力的にアーティスト・イン・レジデンス事業に取り組んでいます。

ツアーでは、パフォーマンスやトークも行います。どうぞ奮ってご参加ください。

ツアーガイド：大澤寅雄（糸島芸農実行委員）

パフォーマンス：河合拓始（音楽家、糸島芸農実行委員）

トーク：松崎宏史（Studio Kura 代表、糸島芸農実行委員長）

お申し込み先：メールに、①お名前、②ご所属、③会員/非会員、④一般/学生、⑤ご連絡先（メールアドレスと携帯番号）を記入して、大会実行委員会事務局までお送りください。宛先：jacpr2018fukuoka@gmail.com

**締め切り：11月11日（日）**

◎参考ウェブサイト

糸島国際芸術祭 2018 糸島芸農 <http://www.ito-artsfarm.com>

Studio Kura <https://studiokura.info>

M.E.A.R.L's フィールドノート（取材記事）<http://mearl.org/fieldnotes-001/>